

令和4年度

鍼灸スポーツ科学科

2年

シラバス

学校法人 健生学園  
東日本医療専門学校

授業科目名	解剖生理学 I			授業形態	講義	教員	樋口 勝広・鈴木 亮太		No. 17																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																														
授業概要	解剖学は生体の正常な構造を、生理学は生体の持つ様々な機能およびその調節機構を理解するための学問であり、この2つは全ての臨床医学の根幹となる学問である。個々の構造と機能を理解しその知識を統合することにより、生命現象を論理的に説明でき、生体全体が把握できる。本講義では生体の細胞レベルから器官まで解説し、全身の機能までを結びつけて学んでいく。																																						
授業の到達目標	解剖学と生理学の基礎を正確に理解し、各器官の正常な形態・構造と機能について理解を深める。																																						
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 特殊感覚</td> <td>第16週目 解剖学・生理学 内分泌系①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 解剖学・神経系</td> <td>第17週目 解剖学・生理学 内分泌系②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 解剖学・神経系</td> <td>第18週目 解剖学・生理学 循環器系①</td> </tr> <tr> <td>第4週目 解剖学・神経系</td> <td>第19週目 解剖学・生理学 循環器系②</td> </tr> <tr> <td>第5週目 生理学・神経系</td> <td>第20週目 解剖学・生理学 筋・骨格系①</td> </tr> <tr> <td>第6週目 生理学・神経系</td> <td>第21週目 解剖学・生理学 筋・骨格系②</td> </tr> <tr> <td>第7週目 生理学・神経系</td> <td>第22週目 解剖学・生理学 筋・骨格系③</td> </tr> <tr> <td>第8週目 解剖学・感覚器系</td> <td>第23週目 解剖学・生理学 生殖器系</td> </tr> <tr> <td>第9週目 解剖学・感覚器系</td> <td>第24週目 解剖生理学の総復習①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 生理学・感覚</td> <td>第25週目 解剖生理学の総復習②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 生理学・感覚</td> <td>第26週目 解剖生理学の総復習③</td> </tr> <tr> <td>第12週目 生理学・筋肉</td> <td>第27週目 解剖生理学の総復習④</td> </tr> <tr> <td>第13週目 生理学・運動</td> <td>第28週目 解剖生理学の総復習⑤</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験の解説</td> <td>第30週目 後期期末試験の解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1年時の解剖学Ⅱ・生理学Ⅰ・生理学Ⅱの復習を行う。</p>									第1週目 特殊感覚	第16週目 解剖学・生理学 内分泌系①	第2週目 解剖学・神経系	第17週目 解剖学・生理学 内分泌系②	第3週目 解剖学・神経系	第18週目 解剖学・生理学 循環器系①	第4週目 解剖学・神経系	第19週目 解剖学・生理学 循環器系②	第5週目 生理学・神経系	第20週目 解剖学・生理学 筋・骨格系①	第6週目 生理学・神経系	第21週目 解剖学・生理学 筋・骨格系②	第7週目 生理学・神経系	第22週目 解剖学・生理学 筋・骨格系③	第8週目 解剖学・感覚器系	第23週目 解剖学・生理学 生殖器系	第9週目 解剖学・感覚器系	第24週目 解剖生理学の総復習①	第10週目 生理学・感覚	第25週目 解剖生理学の総復習②	第11週目 生理学・感覚	第26週目 解剖生理学の総復習③	第12週目 生理学・筋肉	第27週目 解剖生理学の総復習④	第13週目 生理学・運動	第28週目 解剖生理学の総復習⑤	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説
第1週目 特殊感覚	第16週目 解剖学・生理学 内分泌系①																																						
第2週目 解剖学・神経系	第17週目 解剖学・生理学 内分泌系②																																						
第3週目 解剖学・神経系	第18週目 解剖学・生理学 循環器系①																																						
第4週目 解剖学・神経系	第19週目 解剖学・生理学 循環器系②																																						
第5週目 生理学・神経系	第20週目 解剖学・生理学 筋・骨格系①																																						
第6週目 生理学・神経系	第21週目 解剖学・生理学 筋・骨格系②																																						
第7週目 生理学・神経系	第22週目 解剖学・生理学 筋・骨格系③																																						
第8週目 解剖学・感覚器系	第23週目 解剖学・生理学 生殖器系																																						
第9週目 解剖学・感覚器系	第24週目 解剖生理学の総復習①																																						
第10週目 生理学・感覚	第25週目 解剖生理学の総復習②																																						
第11週目 生理学・感覚	第26週目 解剖生理学の総復習③																																						
第12週目 生理学・筋肉	第27週目 解剖生理学の総復習④																																						
第13週目 生理学・運動	第28週目 解剖生理学の総復習⑤																																						
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																						
第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説																																						
教科書・参考書等	医歯薬出版「解剖学」「生理学」を使用する。																																						
成績評価の方法	1) 期末試験の得点 2) 出席状況および提出課題の内容 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。																																						
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。																																						

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	病理学概論			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	18
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生	
授業概要	1. 疾病の概念について理解する。 2. 病因の一般について理解する。 3. 各疾患の病理について理解する。									
授業の到達目標	・病因の内因、外因の分類ができ、その分類の疾患を答えることができる。 ・各病変を説明でき、その疾患例を答えることができる。									
授業内容 ・計画	(授業計画) 第1週目 第1章 病理学～第3章病因について① 第2週目 第3章 病因について② 第3週目 第3章 病因について③ 第4週目 第4章 循環器障害について① 第5週目 第4章 循環器障害について② 第6週目 第5章 退行性病変について① 第7週目 第6章 進行性病変について① 第8週目 第6章 進行性病変について② 第9週目 第7章 炎症について① 第10週目 第8章 腫瘍について① 第11週目 第8章 腫瘍について② 第12週目 第9章 免疫異常について① 第13週目 第9章 免疫異常について② 第14週目 前期末試験 第15週目 第10章 先天性異常について 第16週目 外因 感染症① 第17週目 外因 感染症② 第18週目 外因 感染症③ 第19週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患) ① 第20週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患) ② 第21週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患) ③ 第22週目 血液系疾患(赤血球) ① 第23週目 血液系疾患(白血球・血小板)② 第24週目 血液系疾患(リンパ系)③ 第25週目 循環障害 循環器系疾患① 第26週目 循環障害 循環器系疾患② 第27週目 循環障害 循環器系疾患③ 第28週目 循環障害 循環器系疾患④ 第29週目 後期末試験 第30週目 試験解説とまとめ  (授業の方法および自学学習について) 1)学習方法:主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2)欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 3)各授業で必要に応じて確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。									
教科書 ・参考書等	教科書:医歯薬出版「病理学概論」 参考書:メディックメディア発行「病気が見える シリーズ」 医学書院出版「系統看護学講座 微生物学」									
成績評価の方法	1. 期末試験の得点。 2. 授業態度及び出席状況内容。 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。 ※なお、確認テストの提出および担当教員からの合格が得られない場合は、2点減点としその都度、期末試験から減点する。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	臨床医学各論 I			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	19																																																																																																												
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																																																																																																													
授業概要	各疾病について、成因、疫学、病態生理、主要な症状、検査所見などについて学んでいきます。																																																																																																																					
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患の原因を説明できる。</li> <li>・疾患の症状の特徴を解剖生理学から紐解くことができる。</li> <li>・疾患を確定するための検査およびその所見を説明できる。</li> </ul>																																																																																																																					
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目</td> <td>第2章消化器疾患</td> <td>口腔疾患</td> <td>第16週目</td> <td>第5章腎・尿器疾患</td> <td>原発性糸球体腎炎</td> </tr> <tr> <td>第2週目</td> <td>第2章消化器疾患</td> <td>食道疾患</td> <td>第17週目</td> <td>第5章腎・尿器疾患</td> <td>腎不全～腎盂炎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>胃・十二指腸疾患</td> <td>胃炎</td> <td>第18週目</td> <td>第5章腎・尿器疾患</td> <td>膀胱炎～前立腺癌</td> </tr> <tr> <td>第3週目</td> <td>第2章消化器疾患</td> <td>慢性胃炎～十二指腸憩</td> <td>第19週目</td> <td>第6章内分泌疾患①</td> <td>下垂体疾患</td> </tr> <tr> <td>第4週目</td> <td>第2章消化器疾患</td> <td>腸疾患</td> <td>第20週目</td> <td>第6章内分泌疾患②</td> <td>甲状腺疾患</td> </tr> <tr> <td></td> <td>急性腸炎～大腸癌</td> <td></td> <td>第21週目</td> <td>第6章内分泌疾患③</td> <td>副腎疾患</td> </tr> <tr> <td>第5週目</td> <td>第2章消化器疾患</td> <td>腸疾患</td> <td>第22週目</td> <td>第8章 整形外科疾患①</td> <td>関節疾患</td> </tr> <tr> <td></td> <td>イレウス～腹膜炎</td> <td></td> <td>第23週目</td> <td>第8章 整形外科疾患①</td> <td>骨代謝性疾患・骨腫瘍</td> </tr> <tr> <td>第6週目</td> <td>第3章肝・胆・膵疾患</td> <td>肝・胆・膵臓の解剖生理復習</td> <td>第24週目</td> <td>第8章 整形外科疾患②</td> <td>筋・腱疾患 形態異常</td> </tr> <tr> <td>第7週目</td> <td>第3章肝・胆・膵疾患</td> <td>急性肝炎、慢性肝炎</td> <td>第25週目</td> <td>第8章 整形外科疾患②</td> <td>脊椎疾患</td> </tr> <tr> <td>第8週目</td> <td>第3章肝・胆・膵疾患</td> <td>肝硬変～胆石症</td> <td>第26週目</td> <td>第8章 整形外科疾患③</td> <td>脊椎疾患</td> </tr> <tr> <td>第9週目</td> <td>第3章肝・胆・膵疾患</td> <td>胆嚢炎～膵臓疾患</td> <td>第27週目</td> <td>第8章 整形外科疾患④</td> <td>脊髄損傷 外傷</td> </tr> <tr> <td>第10週目</td> <td>第4章呼吸器疾患①</td> <td>感染性呼吸器疾患</td> <td>第28週目</td> <td>第8章 整形外科疾患④</td> <td>その他の整形外科疾患</td> </tr> <tr> <td>第11週目</td> <td>第4章呼吸器疾患②</td> <td>閉塞性呼吸器疾患</td> <td>第29週目</td> <td colspan="2">後期末試験</td> </tr> <tr> <td>第12週目</td> <td>第4章呼吸器疾患③</td> <td>拘束性呼吸器疾患</td> <td>第30週目</td> <td colspan="2">試験解説とまとめ</td> </tr> <tr> <td>第13週目</td> <td colspan="2">復習まとめ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14週目</td> <td colspan="2">前期末試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15週目</td> <td colspan="2">試験解説とまとめ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。      各々プリントをもとに教科書を熟読すること。      国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。      欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。      自学自習については、特に大事な部分を、「まとめ資料」として配付いたします。それを中心に学習してください。</p>										第1週目	第2章消化器疾患	口腔疾患	第16週目	第5章腎・尿器疾患	原発性糸球体腎炎	第2週目	第2章消化器疾患	食道疾患	第17週目	第5章腎・尿器疾患	腎不全～腎盂炎		胃・十二指腸疾患	胃炎	第18週目	第5章腎・尿器疾患	膀胱炎～前立腺癌	第3週目	第2章消化器疾患	慢性胃炎～十二指腸憩	第19週目	第6章内分泌疾患①	下垂体疾患	第4週目	第2章消化器疾患	腸疾患	第20週目	第6章内分泌疾患②	甲状腺疾患		急性腸炎～大腸癌		第21週目	第6章内分泌疾患③	副腎疾患	第5週目	第2章消化器疾患	腸疾患	第22週目	第8章 整形外科疾患①	関節疾患		イレウス～腹膜炎		第23週目	第8章 整形外科疾患①	骨代謝性疾患・骨腫瘍	第6週目	第3章肝・胆・膵疾患	肝・胆・膵臓の解剖生理復習	第24週目	第8章 整形外科疾患②	筋・腱疾患 形態異常	第7週目	第3章肝・胆・膵疾患	急性肝炎、慢性肝炎	第25週目	第8章 整形外科疾患②	脊椎疾患	第8週目	第3章肝・胆・膵疾患	肝硬変～胆石症	第26週目	第8章 整形外科疾患③	脊椎疾患	第9週目	第3章肝・胆・膵疾患	胆嚢炎～膵臓疾患	第27週目	第8章 整形外科疾患④	脊髄損傷 外傷	第10週目	第4章呼吸器疾患①	感染性呼吸器疾患	第28週目	第8章 整形外科疾患④	その他の整形外科疾患	第11週目	第4章呼吸器疾患②	閉塞性呼吸器疾患	第29週目	後期末試験		第12週目	第4章呼吸器疾患③	拘束性呼吸器疾患	第30週目	試験解説とまとめ		第13週目	復習まとめ					第14週目	前期末試験					第15週目	試験解説とまとめ				
第1週目	第2章消化器疾患	口腔疾患	第16週目	第5章腎・尿器疾患	原発性糸球体腎炎																																																																																																																	
第2週目	第2章消化器疾患	食道疾患	第17週目	第5章腎・尿器疾患	腎不全～腎盂炎																																																																																																																	
	胃・十二指腸疾患	胃炎	第18週目	第5章腎・尿器疾患	膀胱炎～前立腺癌																																																																																																																	
第3週目	第2章消化器疾患	慢性胃炎～十二指腸憩	第19週目	第6章内分泌疾患①	下垂体疾患																																																																																																																	
第4週目	第2章消化器疾患	腸疾患	第20週目	第6章内分泌疾患②	甲状腺疾患																																																																																																																	
	急性腸炎～大腸癌		第21週目	第6章内分泌疾患③	副腎疾患																																																																																																																	
第5週目	第2章消化器疾患	腸疾患	第22週目	第8章 整形外科疾患①	関節疾患																																																																																																																	
	イレウス～腹膜炎		第23週目	第8章 整形外科疾患①	骨代謝性疾患・骨腫瘍																																																																																																																	
第6週目	第3章肝・胆・膵疾患	肝・胆・膵臓の解剖生理復習	第24週目	第8章 整形外科疾患②	筋・腱疾患 形態異常																																																																																																																	
第7週目	第3章肝・胆・膵疾患	急性肝炎、慢性肝炎	第25週目	第8章 整形外科疾患②	脊椎疾患																																																																																																																	
第8週目	第3章肝・胆・膵疾患	肝硬変～胆石症	第26週目	第8章 整形外科疾患③	脊椎疾患																																																																																																																	
第9週目	第3章肝・胆・膵疾患	胆嚢炎～膵臓疾患	第27週目	第8章 整形外科疾患④	脊髄損傷 外傷																																																																																																																	
第10週目	第4章呼吸器疾患①	感染性呼吸器疾患	第28週目	第8章 整形外科疾患④	その他の整形外科疾患																																																																																																																	
第11週目	第4章呼吸器疾患②	閉塞性呼吸器疾患	第29週目	後期末試験																																																																																																																		
第12週目	第4章呼吸器疾患③	拘束性呼吸器疾患	第30週目	試験解説とまとめ																																																																																																																		
第13週目	復習まとめ																																																																																																																					
第14週目	前期末試験																																																																																																																					
第15週目	試験解説とまとめ																																																																																																																					
教科書・参考書等	教科書：医歯薬出版「臨床医学各論」 参考書：(株)メディックメディア「病気がみえる」																																																																																																																					
成績評価の方法	出席状況及び小テストや課題のクリア、期末試験の結果を総合して60%以上を合格とする。 ※小テスト及び課題のクリアがなければ、その都度2点減点とし、期末試験から引くこととする。 なお定期試験毎に点数の満たなかったものは、再試験前に指示・指導を仰ぐこと。																																																																																																																					
実践的教育に関する経歴等	整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。																																																																																																																					

授業科目名	臨床医学総論			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	20																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	<p>各種検査法を、学ぶことで疾患の概要を理解し、臨床を想定した患者対応ができるようになる。                  検査数値の異常から疾患を考えることができる。                  症候から疾患を考えることができる。                  治療の種類を覚え、医療現場での情報共有ができる。                  患者心理を理解することができる。</p>																																							
授業の到達目標	<p>各種検査法を学ぶことで、疾患の診断、鑑別、除外診断の基礎を習得する。</p>																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 ガイダンス, 診察の概要</td> <td>第16週目 心臓, 腹部, 背部</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医療面接, 視診, 触診</td> <td>第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法</td> </tr> <tr> <td>第3週目 打診, 聴診, 測定法</td> <td>第18週目 反射検査, 脳神経の検査,</td> </tr> <tr> <td>第4週目 神経系の診察</td> <td>第19週目 髄膜刺激症状, その他</td> </tr> <tr> <td>第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察</td> <td>第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常</td> </tr> <tr> <td>第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態</td> <td>第21週目 不随意運動, 協調運動</td> </tr> <tr> <td>第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格</td> <td>第22週目 起立と歩行, ROM, MMT</td> </tr> <tr> <td>第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行</td> <td>第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,</td> </tr> <tr> <td>第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態</td> <td>第24週目 救急時の診察, 女性の診察</td> </tr> <tr> <td>第10週目 リンパ節, その他の一般的状態</td> <td>第25週目 小児の診察, 高齢者の診察</td> </tr> <tr> <td>第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼</td> <td>第26週目 一般検査</td> </tr> <tr> <td>第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔</td> <td>第27週目 血液生化学検査</td> </tr> <tr> <td>第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜</td> <td>第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)プリント, パワーポイントを使用し授業を行うことを基本とする。</li> <li>2)その日の内容は各自復習する。</li> <li>3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。</li> <li>4)検査法の実技も行うので, 手足を出せて, 動きやすい服装が好ましい。</li> <li>5)日直は授業前に準備するものがないか職員室まで確認に来ること。</li> </ol>										第1週目 ガイダンス, 診察の概要	第16週目 心臓, 腹部, 背部	第2週目 医療面接, 視診, 触診	第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法	第3週目 打診, 聴診, 測定法	第18週目 反射検査, 脳神経の検査,	第4週目 神経系の診察	第19週目 髄膜刺激症状, その他	第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察	第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常	第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態	第21週目 不随意運動, 協調運動	第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格	第22週目 起立と歩行, ROM, MMT	第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行	第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,	第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態	第24週目 救急時の診察, 女性の診察	第10週目 リンパ節, その他の一般的状態	第25週目 小児の診察, 高齢者の診察	第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼	第26週目 一般検査	第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔	第27週目 血液生化学検査	第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜	第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 ガイダンス, 診察の概要	第16週目 心臓, 腹部, 背部																																							
第2週目 医療面接, 視診, 触診	第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法																																							
第3週目 打診, 聴診, 測定法	第18週目 反射検査, 脳神経の検査,																																							
第4週目 神経系の診察	第19週目 髄膜刺激症状, その他																																							
第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察	第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常																																							
第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態	第21週目 不随意運動, 協調運動																																							
第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格	第22週目 起立と歩行, ROM, MMT																																							
第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行	第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,																																							
第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態	第24週目 救急時の診察, 女性の診察																																							
第10週目 リンパ節, その他の一般的状態	第25週目 小児の診察, 高齢者の診察																																							
第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼	第26週目 一般検査																																							
第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔	第27週目 血液生化学検査																																							
第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜	第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	臨床医学総論 医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)各学期で実施する期末試験の得点。</li> <li>2)小テスト, 出席状況, 課題提出など。</li> </ol> 上記の項目から総合的に評価。通年の成績が60%以上で単位を認定。																																							
実践的教育に関する経歴等	①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務																																							

授業科目名	リハビリテーション医学			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	21																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	リハビリテーションの幅広い概念を把握し、各疾患に対するリハビリテーションに必要な知識を理解する。																																							
授業の到達目標	現在リハビリテーション医学の知識は、治療院・介護施設・スポーツトレーナーなど、幅広い分野で求められている。リハビリテーションの概念、特徴を理解することにより様々な現場に対応できる知識・技術の基本となるものについて学習していく。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 リハビリテーションの概要</td> <td>第16週目 整形外科疾患①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医学的リハビリテーション概要</td> <td>第17週目 整形外科疾患②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 医学的リハ, 障害の評価</td> <td>第18週目 パーキンソン病①</td> </tr> <tr> <td>第4週目 障害の評価(高次～物療)①</td> <td>第19週目 パーキンソン病②</td> </tr> <tr> <td>第5週目 障害の評価(高次～物療)②</td> <td>第20週目 呼吸器疾患</td> </tr> <tr> <td>第6週目 障害の評価 実技</td> <td>第21週目 心疾患</td> </tr> <tr> <td>第7週目 脳卒中①</td> <td>第22週目 高齢者のリハビリテーション</td> </tr> <tr> <td>第8週目 脳卒中②</td> <td>第23週目 姿勢とその異常</td> </tr> <tr> <td>第9週目 脊髄損傷①</td> <td>第24週目 正常歩行と異常歩行</td> </tr> <tr> <td>第10週目 脊髄損傷②</td> <td>第25週目 肩甲上腕リズム</td> </tr> <tr> <td>第11週目 切断</td> <td>第26週目 機能解剖</td> </tr> <tr> <td>第12週目 脳性麻痺①</td> <td>第27週目 機能解剖</td> </tr> <tr> <td>第13週目 脳性麻痺②</td> <td>第28週目 機能解剖</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)プリント, パワーポイントを使用し授業を行うことを基本とする。</li> <li>2)その日の内容は各自復習する。</li> <li>3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。</li> <li>4)検査法の実技も行うので, 手足を出せて, 動きやすい服装が好ましい。</li> <li>5)日直は授業前に準備するものがないか職員室まで確認に来ること。</li> </ol>										第1週目 リハビリテーションの概要	第16週目 整形外科疾患①	第2週目 医学的リハビリテーション概要	第17週目 整形外科疾患②	第3週目 医学的リハ, 障害の評価	第18週目 パーキンソン病①	第4週目 障害の評価(高次～物療)①	第19週目 パーキンソン病②	第5週目 障害の評価(高次～物療)②	第20週目 呼吸器疾患	第6週目 障害の評価 実技	第21週目 心疾患	第7週目 脳卒中①	第22週目 高齢者のリハビリテーション	第8週目 脳卒中②	第23週目 姿勢とその異常	第9週目 脊髄損傷①	第24週目 正常歩行と異常歩行	第10週目 脊髄損傷②	第25週目 肩甲上腕リズム	第11週目 切断	第26週目 機能解剖	第12週目 脳性麻痺①	第27週目 機能解剖	第13週目 脳性麻痺②	第28週目 機能解剖	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 リハビリテーションの概要	第16週目 整形外科疾患①																																							
第2週目 医学的リハビリテーション概要	第17週目 整形外科疾患②																																							
第3週目 医学的リハ, 障害の評価	第18週目 パーキンソン病①																																							
第4週目 障害の評価(高次～物療)①	第19週目 パーキンソン病②																																							
第5週目 障害の評価(高次～物療)②	第20週目 呼吸器疾患																																							
第6週目 障害の評価 実技	第21週目 心疾患																																							
第7週目 脳卒中①	第22週目 高齢者のリハビリテーション																																							
第8週目 脳卒中②	第23週目 姿勢とその異常																																							
第9週目 脊髄損傷①	第24週目 正常歩行と異常歩行																																							
第10週目 脊髄損傷②	第25週目 肩甲上腕リズム																																							
第11週目 切断	第26週目 機能解剖																																							
第12週目 脳性麻痺①	第27週目 機能解剖																																							
第13週目 脳性麻痺②	第28週目 機能解剖																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	リハビリテーション医学 医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)各学期で実施する期末試験の得点。</li> <li>2)小テスト, 出席状況, 課題提出など。</li> </ol> 上記の項目から総合的に評価。通年の成績が60%以上で単位を認定。																																							
実践的教育に関する経歴等	①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務																																							

授業科目名	はりきゆう理論Ⅱ			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	22
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	1) 鍼灸治療による刺激が生体にどのような反応を引き起こすのか、現代医学的観点から科学的に解明し臨床効果の裏付けとして学習する。 2) 関連学説においては、各学説と東洋医学(鍼灸施術)との関連を理解し、臨床応用に役立てる。									
授業の到達目標	鍼灸療法の一般治効理論と関連学説を学習し、鍼灸臨床に生かせる知識を身につける。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 第2週目 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 第3週目 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 第4週目 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 第5週目 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 第6週目 鍼灸治効機序 ① 第7週目 鍼灸治効機序 ② 第8週目 鍼灸治効機序 ③ 第9週目 鍼灸治効機序 ④ 第10週目 総復習 第11週目 総復習 第12週目 演習問題 第13週目 演習問題 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験解説  (授業の方法および自学学習について)  学習方法: プリントを配布し授業を行う。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 単位時間内に終わらなかった場合には追加講義を行う。 教科書(p47～最後)									
教科書・参考書等	医道の日本社の『はりきゆう理論 第3版』を使用する。									
成績評価の方法	1. 期末試験の得点。 2. 授業態度、出席状況及び提出課題内容。 上記の項目から総合的に評価し、通年成績が60点以上となった場合のみ単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	東洋医学概論Ⅱ			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	23
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	1年次に学んだ東洋医学概論に続いて、主に東洋医学的観点からみた身体の生理病理、病因病機を学ぶ。									
授業の到達目標	1. 東洋医学的な身体の捉え方、生理病理観・病因病機を学び、診断学、弁証論治を学ぶための基礎を身につける。 2. 現代医学の枠から離れて東洋思想の整体観を身につける。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 病因病機 四診(切診) 第2週目 四診(切診・望診) 第3週目 四診(切診・望診) 第4週目 臓腑弁証(心・小腸) 第5週目 臓腑弁証(腎・膀胱) 第6週目 臓腑弁証(脾・胃) 第7週目 臓腑弁証(肺・大腸) 第8週目 臓腑弁証(肝・胆) 第9週目 臓腑弁証(複合) 第10週目 四診(聞診・問診) 第11週目 経絡弁証 第12週目 六淫弁証・六経弁証・衛気営血弁証・三焦弁 第13週目 治則、治法 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説  (授業の方法および自学学習について)  ・適宜、授業内で参考資料を配布する。 ・これらの内容は東洋医学臨床論Ⅰ、経絡経穴概論Ⅱでも行う。									
教科書・参考書等	『新版 東洋医学概論』を使用する。									
成績評価の方法	期末試験の成績が60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸接骨院に勤務歴あり。鍼灸接骨院の開業歴あり。									



授業科目名	経絡経穴概論Ⅱ(穴性学)			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	24
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	1. 主に五俞穴・五要穴を中心に経穴の特性を学ぶ。 2. 各疾患の特効穴や弁証取穴など総合的に学ぶ。									
授業の到達目標	1. 十四経(十二正経及び督脈任脈)における主な経穴の穴性を学ぶ。 2. 東洋医学的治療選穴が自分で考えられるようになることを目標とする。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 五俞穴の穴性(難経六十八難) 第2週目 五俞穴の穴性(難経六十九難) 第3週目 五要穴の穴性 第4週目 配穴法(原絡、俞源、俞募、募合、郄募) 第5週目 四総穴、八会穴、奇経八脈の穴性 第6週目 気血津液弁証の虚証への治法と穴性 第7週目 気血津液弁証の実証への治法と穴性 第8週目 外感表証への治法と穴性 第9週目 臓腑の虚証への治法と穴性 第10週目 臓腑弁証の臓の実証への治法と穴性 第11週目 臓腑弁証の腑の実証への治法と穴性 第12週目 虚実挟雜証への治法と穴性 第13週目 複合弁証への治法と穴性 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説  (授業の方法および自学学習について)									
教科書・参考書等	『新版 経絡経穴学概論』『新版 東洋医学臨床論<鍼灸編>』『新版 東洋医学概論』を使用する。									
成績評価の方法	期末試験の成績が60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸接骨院に勤務歴あり。鍼灸接骨院の開業歴あり。									

授業科目名	東洋医学臨床論 I			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	25
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生	
授業概要	1. 東洋医学の考えに基づいた各疾患の分類を学ぶ。 教科書に記載されている弁証を丸暗記するのではなく、弁証を自分の頭で考えられるようになるための演習中心に講義する。 2. 各疾患の治療穴を各自が選穴するための基礎演習をおこなう。									
授業の到達目標	1. 各疾患の東洋医学的観点からの治療法を学ぶ。 2. 東洋医学的な病態の見方および弁証論治について学び、実際の臨床につなげていく思考回路を作ることを目標とする。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 頭痛の東洋医学的考え方 第2週目 顔面痛の東洋医学的考え方 第3週目 顔面麻痺の東洋医学的考え方 第4週目 歯痛の東洋医学的考え方 第5週目 眼性疲労の東洋医学的考え方 第6週目 鼻閉・鼻汁の東洋医学的考え方 第7週目 脱毛症の東洋医学的考え方 第8週目 めまいの東洋医学的考え方 第9週目 耳鳴り・難聴の東洋医学的考え方 第10週目 咳嗽・喘息の東洋医学的考え方 第11週目 胸痛の東洋医学的考え方 第12週目 腹痛の東洋医学的考え方 第13週目 悪心・嘔吐の東洋医学的考え方 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説 第16週目 便秘・下痢の東洋医学的考え方 第17週目 月経異常の東洋医学的考え方 第18週目 排尿障害の東洋医学的考え方 第19週目 EDの東洋医学的考え方 第20週目 高・低血圧症の東洋医学的考え方 第21週目 食欲不振の東洋医学的考え方 第22週目 肥満の東洋医学的考え方 第23週目 発熱の東洋医学的考え方 第24週目 のぼせ・冷えの東洋医学的考え方 第25週目 不眠の東洋医学的考え方 第26週目 疲労・倦怠の東洋医学的考え方 第27週目 発疹の東洋医学的考え方 第28週目 小児症状の東洋医学的考え方 第29週目 期末試験 第30週目 期末試験の解説  (授業の方法および自学学習について)  ・適宜、授業内で参考資料を配布する。 ・原則、座学であるが必要に応じて実技室での実習をおこなう。									
教科書・参考書等	『新版 東洋医学臨床論《鍼灸編》』『新版 経絡経穴学概論』『新版 東洋医学概論』を使用する。									
成績評価の方法	期末試験の通年成績が120点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸接骨院に勤務歴あり。鍼灸接骨院の開業歴あり。									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	東洋医学臨床論Ⅱ			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	26
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生	
授業概要	1. 現代医学の考えに基づいた各疾患の病態、治療法を学ぶ。 2. 現代医学的な鍼灸治療法のアプローチができるように学習していく。									
授業の到達目標	1. 鍼灸治療の適応・不適応について学習し、各疾患の現代医学の病態を理解する。 2. 各疾患ごとの病態を元に適切な治療穴を選穴できるようになる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 現代医学的考え方 治療原則・治療計画 第2週目 頭痛(現代医学) 第3週目 顔面痛・顔面麻痺(現代医学) 第4週目 歯痛・眼精疲労(現代医学) 第5週目 鼻閉・鼻汁(現代医学) 第6週目 めまい(現代医学的考え方) 第7週目 耳鳴り・難聴(現代医学) 第8週目 咳嗽・喀痰(現代医学) 第9週目 胸痛・呼吸困難・動悸・息切れ(現代医学) 第10週目 腹痛(現代医学) 第11週目 便秘と下痢(現代医学) 第12週目 悪心・嘔吐(現代医学) 第13週目 食欲不振・やせ(るい瘦)(現代医学) 第14週目 前期期末試験 第15週目 肥満・口渇(現代医学) 第16週目 月経異常・性器出血・帯下(現代医学) 第17週目 不妊症・骨盤位・つわり(現代医学) 第18週目 乳汁分泌不全・脱毛(現代医学) 第19週目 排尿障害・ED(現代医学) 第20週目 血圧異常(現代医学) 第21週目 浮腫・出血傾向(現代医学) 第22週目 発熱(現代医学的考え方) 第23週目 のぼせと冷え(現代医学) 第24週目 睡眠障害(現代医学) 第25週目 疲労と倦怠・気分障害(現代医学) 第26週目 痒痒感(痒み)・発疹・脱毛症(現代医学) 第27週目 小児・老年特有の症状(現代医学) 第28週目 歩行異常(現代医学) 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験解説  (授業の方法および自学学習について) 1) 学習方法: 主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2) 欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 3) 各授業で必要に応じて確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。									
教科書・参考書等	教科書: 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編) 参考図書: 文光堂「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」									
成績評価の方法	1. 期末試験の得点。 2. 授業態度及び出席状況内容。 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅱ(経穴)			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	27																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	東洋医学的な取穴だけでなく、解剖学的な取穴方法も学ぶ。臨床への応用を学ぶ。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次で学習した基本的な経絡経穴の総復習とともに解剖学的にも経穴をとらえられるようになる。</li> <li>・東洋医学的な取穴だけでなく、解剖学的な取穴方法も学び、臨床への応用を学ぶ。</li> </ul>																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 ガイダンス, 骨度法</td> <td>第16週目 前腕前面の筋, 神経</td> </tr> <tr> <td>第2週目 胸鎖乳突筋, 咬筋</td> <td>第17週目 前腕前面の筋, 神経</td> </tr> <tr> <td>第3週目 僧帽筋, 大胸筋, 小胸筋</td> <td>第18週目 前腕後面の筋, 神経</td> </tr> <tr> <td>第4週目 前鋸筋, 肩関節周囲筋</td> <td>第19週目 前腕後面の筋, 神経</td> </tr> <tr> <td>第5週目 大・小円筋, 棘上・下筋</td> <td>第20週目 下腿前面の筋, 神経</td> </tr> <tr> <td>第6週目 三角筋, 上腕三頭筋</td> <td>第21週目 下腿後面の筋, 神経</td> </tr> <tr> <td>第7週目 上腕二頭筋, 肺経の筋, 小腸経の筋</td> <td>第22週目 下腿側面の筋, 神経</td> </tr> <tr> <td>第8週目 大・中殿筋, 大腿筋膜張筋</td> <td>第23週目 頭部・四肢横並び, 身体の中の三角</td> </tr> <tr> <td>第9週目 大腿四頭筋, 縫工筋, 薄筋</td> <td>第24週目 背部横並び</td> </tr> <tr> <td>第10週目 脾経の筋, 胃経の筋</td> <td>第25週目 胸・腹部横並び</td> </tr> <tr> <td>第11週目 腎経の筋, 膀胱経の筋</td> <td>第26週目 運動器疾患と経穴</td> </tr> <tr> <td>第12週目 肝経の筋, 胆経の筋</td> <td>第27週目 五俞穴, 五要穴, 五行穴</td> </tr> <tr> <td>第13週目 動脈拍動部</td> <td>第28週目 正経十二経つながり, その他神経</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)プリント, パワーポイントを使用し授業を行うことを基本とする。</li> <li>2)その日の内容は各自復習する。</li> <li>3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。</li> <li>4)遅刻は3回で1回の欠席とする。*感染症などの特別な場合を除く。</li> </ol>										第1週目 ガイダンス, 骨度法	第16週目 前腕前面の筋, 神経	第2週目 胸鎖乳突筋, 咬筋	第17週目 前腕前面の筋, 神経	第3週目 僧帽筋, 大胸筋, 小胸筋	第18週目 前腕後面の筋, 神経	第4週目 前鋸筋, 肩関節周囲筋	第19週目 前腕後面の筋, 神経	第5週目 大・小円筋, 棘上・下筋	第20週目 下腿前面の筋, 神経	第6週目 三角筋, 上腕三頭筋	第21週目 下腿後面の筋, 神経	第7週目 上腕二頭筋, 肺経の筋, 小腸経の筋	第22週目 下腿側面の筋, 神経	第8週目 大・中殿筋, 大腿筋膜張筋	第23週目 頭部・四肢横並び, 身体の中の三角	第9週目 大腿四頭筋, 縫工筋, 薄筋	第24週目 背部横並び	第10週目 脾経の筋, 胃経の筋	第25週目 胸・腹部横並び	第11週目 腎経の筋, 膀胱経の筋	第26週目 運動器疾患と経穴	第12週目 肝経の筋, 胆経の筋	第27週目 五俞穴, 五要穴, 五行穴	第13週目 動脈拍動部	第28週目 正経十二経つながり, その他神経	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 ガイダンス, 骨度法	第16週目 前腕前面の筋, 神経																																							
第2週目 胸鎖乳突筋, 咬筋	第17週目 前腕前面の筋, 神経																																							
第3週目 僧帽筋, 大胸筋, 小胸筋	第18週目 前腕後面の筋, 神経																																							
第4週目 前鋸筋, 肩関節周囲筋	第19週目 前腕後面の筋, 神経																																							
第5週目 大・小円筋, 棘上・下筋	第20週目 下腿前面の筋, 神経																																							
第6週目 三角筋, 上腕三頭筋	第21週目 下腿後面の筋, 神経																																							
第7週目 上腕二頭筋, 肺経の筋, 小腸経の筋	第22週目 下腿側面の筋, 神経																																							
第8週目 大・中殿筋, 大腿筋膜張筋	第23週目 頭部・四肢横並び, 身体の中の三角																																							
第9週目 大腿四頭筋, 縫工筋, 薄筋	第24週目 背部横並び																																							
第10週目 脾経の筋, 胃経の筋	第25週目 胸・腹部横並び																																							
第11週目 腎経の筋, 膀胱経の筋	第26週目 運動器疾患と経穴																																							
第12週目 肝経の筋, 胆経の筋	第27週目 五俞穴, 五要穴, 五行穴																																							
第13週目 動脈拍動部	第28週目 正経十二経つながり, その他神経																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	解剖学・経絡経穴概論 医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)各学期で実施する期末試験の得点。</li> <li>2)小テスト, 出席状況, 課題提出など。</li> </ol> 上記の項目から総合的に評価。通年の成績が60%以上で単位を認定。																																							
実践的教育に関する経歴等	①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務																																							

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅲ(生体観察学含む)			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	28
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	<p>体表観察上の個人差を発見できるようになる。                  皮膚の下にある各器官を体表から触知し、その構造をイメージできるようになる。                  筋・神経・血管などの位置が皮膚上から把握できるようになる。                  正常な人体の構造を学ぶことで異常な状態を知る上での基盤を構築する。</p>									
授業の到達目標	<p>体表から見た身体の仕組みを学習し、その特徴を理解することができるようになる。</p>									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 ガイダンス,触擦の基礎                  第2週目 肩甲骨,鎖骨,上腕骨,橈骨,尺骨                  第3週目 手根骨,指骨,上肢に関わる靭帯                  第4週目 肩甲上腕,胸郭,肘,手,指関節に関わる筋                  第5週目 肩甲上腕,胸郭,肘,手,指関節に関わる筋                  第6週目 骨盤,大腿骨,膝関節周辺,足関節                  第7週目 スカルパ三角,膝靭帯,足靭帯                  第8週目 股関節に関わる筋                  第9週目 股関節に関わる筋                  第10週目 関節,足関節に関わる筋                  第11週目 胸郭                  第12週目 脊柱                  第13週目 脊柱                  第14週目 後期期末試験                  第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)プリント, 模型を使用し授業を行うことを基本とする。                  2)その日の内容は各自復習する。                  3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。                  4)遅刻は3回で1回の欠席とする。*感染症などの特別な場合を除く。                  5)実技授業なので, 手足や背部, 腹部などをだすことができる、動きやすい服装が好ましい。</p>									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	<p>1)各学期で実施する期末試験の得点。                  2)出席状況, 課題提出など。                  上記の項目から総合的に評価。通年の成績が60%以上で単位を認定。</p>									
実践的教育に関する経歴等	<p>①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務</p>									

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅳ(あはきの適応を含む)			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	29
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各疾患の診察法を学ぶ。</li> <li>・診察法のなかで、適応・不適応をしっかりと鑑別できるよう学ぶ。</li> </ul>									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各疾患別の医療面接での聴取のポイントと徒手検査法ができるようになる。</li> <li>・不適応を除外する問診法、徒手検査法を行うことができる。</li> </ul>									
授業内容 ・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1週目 膝周囲痛の診察①</li> <li>第2週目 膝周囲痛の診察②</li> <li>第3週目 膝周囲痛の診察③</li> <li>第4週目 膝周囲痛の診察④</li> <li>第5週目 腰下肢痛の診察①</li> <li>第6週目 腰下肢痛の診察②</li> <li>第7週目 腰下肢痛の診察③</li> <li>第8週目 腰下肢痛の診察④</li> <li>第9週目 腰下肢痛の診察⑤</li> <li>第10週目 上肢痛の診察①</li> <li>第11週目 上肢痛の診察②</li> <li>第12週目 上肢痛の診察③</li> <li>第13週目 上肢痛の診察④</li> <li>第14週目 診察の評価</li> <li>第15週目 診察のまとめ</li> </ul> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各疾患の病態や特徴的な症状の説明(教室)→各疾患の診察法説明(実習室2)→模擬症例(実習室2)</li> </ul> <p>上記の形で授業を進めていきます。</p>									
教科書・ 参考書等	<p>&lt;参考書&gt;</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>									
成績評価 の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末に行われる前期実技試験の結果において評価する。</li> </ul>									
実践的教育に 関する経歴等	<p>整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。</p>									

授業科目名	応用はりきゅう実技 I		授業形態	講義	教員	善積 紗英子		No.	30
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生
授業概要	身体各部位への刺鍼技術を習得する。 人体の解剖学的特徴を把握し、目的をもって刺鍼する。								
授業の到達目標	1年次に修得した基礎技術を更に習熟し、身体各部に安全に刺鍼を行う。								
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 基本刺鍼の確認 第2週目 基本施灸の確認 第3週目 上肢への刺鍼① 第4週目 上肢への刺鍼② 第5週目 下肢への刺鍼① 第6週目 下肢への刺鍼② 第7週目 頸部への刺鍼① 第8週目 頸部への刺鍼② 第9週目 肩背部への刺鍼① 第10週目 肩背部への刺鍼② 第11週目 肩上部のつまみ押手① 第12週目 肩上部のつまみ押手② 第13週目 前期期末実技試験① 第14週目 前期期末実技試験② 第15週目 殿部への刺鍼 第16週目 側臥位に対する刺鍼① 第17週目 側臥位に対する刺鍼② 第18週目 前頸部への刺鍼 第19週目 頭部への刺鍼 第20週目 可動域の観察と原因筋への刺鍼① 第21週目 可動域の観察と原因筋への刺鍼② 第22週目 円皮鍼① 第23週目 円皮鍼② 第24週目 低周波鍼通電療法① 第25週目 低周波鍼通電療法② 第26週目 運動鍼① 第27週目 運動鍼② 第28週目 後期期末実技試験① 第29週目 後期期末実技試験② 第30週目 2年生の実技まとめ  (授業の方法および自学学習について) 主に配布資料を用いる。 実技の習得には時間がかかるため、授業外の時間を使用して各自練習すること。 欠席により授業の配付資料を受け取れなかった場合、次の授業日の授業開始前の朝までに、職員室にて担当教員に請求すること。 前期は身体各部の触診と基本的な刺鍼を学ぶ。 後期は前期の内容を踏まえたうえで、治療部位の判断、治療を行う。								
教科書・参考書等	医道の日本社『はりきゅう実技<基礎編>』を使用する。 参考書として『解剖学』を使用する。								
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験(実技試験)の得点 2)出席状況 本授業は実技中心のため、出席状況を重視する。 遅刻1回につき2点、欠席1回につき4点、実技試験の得点から減点とする。  上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	鍼灸接骨院の勤務歴あり。								

授業科目名	応用はりきゅう実技Ⅱ			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	31
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生	
授業概要	1. 背俞穴、五俞穴、五行穴を中心に要穴票表の経穴に鍼灸治療を行う。 2. 要穴の穴性を学ぶ。									
授業の到達目標	1. 背部に対する各種の鍼灸法を学んでいく。特に灸を主体とする。 2. 経穴の持つ穴性を意識した施術できるようになることを目標とする。 3. 患者へ長鍼の操作を行えるように技術を高める。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 背俞穴への鍼灸① 第2週目 背俞穴への鍼灸② 第3週目 原穴・郄穴・絡穴への鍼灸 第4週目 募穴への鍼灸 第5週目 原絡配穴と俞原配穴① 第6週目 原絡配穴と俞原配穴② 第7週目 郄募配穴と募合配穴① 第8週目 郄募配穴と募合配穴② 第9週目 五行穴への鍼灸① 第10週目 五行穴への鍼灸② 第11週目 五行穴への鍼灸③ 第12週目 難経六十九難方式の鍼灸① 第13週目 難経六十九難方式の鍼灸② 第14週目 前期期末実技試験 第15週目 難経六十八難方式の鍼灸 第16週目 鍼灸の補瀉法 第17週目 実熱への鍼灸 第18週目 痰湿への鍼灸 第19週目 気滞への鍼灸 第20週目 血虚への鍼灸 第21週目 血瘀への鍼灸 第22週目 津傷への鍼灸 第23週目 陰虚への鍼灸 第24週目 気虚への鍼灸 第25週目 気陷への鍼灸 第26週目 陽虚への鍼灸 第27週目 表実証系統への鍼灸 第28週目 奇経八脈病証への鍼灸 第29週目 後期期末実技試験 第30週目 虚実挟雜証への鍼灸  (授業の方法および自学学習について) ・原則私詣廠察。具刺に取組むこと。									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	1) 期末試験の得点。  2) 出席状況。 上記項目から総合的評価して120点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸接骨院に勤務歴あり。鍼灸接骨院の開業歴あり。									



授業科目名	臨床はりきゅう実技 I (臨床実習前施術実技試験を含む)		授業形態	実習	教員	大渡 光弘		No.	32
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生
授業概要	①検査法の正確な方法とその意義を学ぶ。 ②特に施術で使用される要穴について、正確に素早く取穴できるよう学ぶ。								
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・症状から検査法を取捨選択できる。</li> <li>・検査法の陽性所見と、その意義を答えることができる。</li> <li>・指示された、経穴を正確に時間内に取穴できる。</li> <li>・これらを総合した、臨床実習前施術実技試験に合格する。</li> </ul>								
授業内容 ・計画	(授業計画) 第1週目 不応疾患の検査法 第2週目 膝痛の検査法① 第3週目 膝痛の検査法② 第4週目 腰下肢痛の検査法① 第5週目 腰下肢痛の検査法② 第6週目 上肢痛の検査法① 第7週目 上肢痛の検査法② 第8週目 上肢痛の検査法③ 第9週目 検査法の総復習① 第10週目 検査法の総復習② 第11週目 要穴の取穴① 第12週目 要穴の取穴② 第13週目 要穴の取穴③ 第14週目 臨床実習前施術実技試験練習 第15週目 臨床実習前施術実技試験  (授業の方法および自学学習について)  プリントを用意。実技室で行う。 上肢、下肢が露出しやすい服装が望ましい。								
教科書 ・参考書等	参考図書: 医道の日本社「診察法と治療法」シリーズ、「問診・診察ハンドブック」								
成績評価の方法	臨床実習前施術試験を行い評価する。60点以上を合格する。臨床実習に対応する為、ある一定のレベルが必要。 不合格者は合格するまで再試験を行うものとする。								
実践的教育に関する経歴等	整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。								

授業科目名	臨床実習 I			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	33																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	臨床における医療面接や身体の診察などの基本的な知識を身に着け、患者さんの応対ができるようになる。																																							
授業の到達目標	臨床における一般入試的な医療面接、診察、検査などの基礎知識を身に着け、実際に患者さんの応対を行い、臨床の一連の流れに触れ、臨床力を身に着ける。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 医療面接の基礎</td> <td>第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医療面接の基礎</td> <td>第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 患者導入と予診表記載</td> <td>第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 主訴の把握・症状</td> <td>第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 展開・問題の把握</td> <td>第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル</td> <td>第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握</td> <td>第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦</td> </tr> <tr> <td>第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取</td> <td>第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧</td> </tr> <tr> <td>第9週目 最終要約と確認</td> <td>第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第10週目 インフォームドコンセントについて</td> <td>第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け</td> <td>第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第12週目 治療計画の調整と誘導について</td> <td>第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験</td> <td>第28週目 検査法を用いての診察・判定</td> </tr> <tr> <td>第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験</td> <td>第29週目 検査法を用いての診察・判定</td> </tr> <tr> <td>第15週目 医療面接総合診察</td> <td>第30週目 医療面接総合診察</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習室で授業を行う。</li> <li>・毎回小グループ(3~4人)を形成し、相互協力のもと臨床実習を行う。</li> </ul>										第1週目 医療面接の基礎	第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①	第2週目 医療面接の基礎	第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②	第3週目 患者導入と予診表記載	第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③	第4週目 主訴の把握・症状	第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④	第5週目 展開・問題の把握	第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤	第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル	第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥	第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握	第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦	第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取	第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧	第9週目 最終要約と確認	第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第10週目 インフォームドコンセントについて	第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け	第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第12週目 治療計画の調整と誘導について	第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第28週目 検査法を用いての診察・判定	第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第29週目 検査法を用いての診察・判定	第15週目 医療面接総合診察	第30週目 医療面接総合診察
第1週目 医療面接の基礎	第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①																																							
第2週目 医療面接の基礎	第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②																																							
第3週目 患者導入と予診表記載	第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③																																							
第4週目 主訴の把握・症状	第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④																																							
第5週目 展開・問題の把握	第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤																																							
第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル	第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥																																							
第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握	第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦																																							
第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取	第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧																																							
第9週目 最終要約と確認	第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第10週目 インフォームドコンセントについて	第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け	第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第12週目 治療計画の調整と誘導について	第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第28週目 検査法を用いての診察・判定																																							
第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第29週目 検査法を用いての診察・判定																																							
第15週目 医療面接総合診察	第30週目 医療面接総合診察																																							
教科書・参考書等	配布プリント及び、配布テキスト																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席点や授業での平常点、前期、後期で臨床実習医療面接総合評価試験、検査法を用いての診察・判定を行い、総合評価とする。</li> <li>2. 前期評価と後期評価が合計120点以上の者を合格とする。</li> </ol>																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	臨床実習Ⅱ			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	34																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各疾患の診察法・治療法を学ぶ。</li> <li>実際に症例を体験し、診察から治療までの流れを把握する。</li> </ul>																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各疾患別の医療面接での聴取のポイント、診察に重要な鑑別項目を説明できる。</li> <li>その疾患についての適切な治療法を考え治療できる。</li> </ul>																																							
授業内容 ・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 膝周囲痛の疾患 治療①</td> <td>第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 膝周囲痛の疾患 治療②</td> <td>第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 膝周囲痛の疾患 治療③</td> <td>第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 膝周囲痛の疾患 治療④</td> <td>第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 腰下肢痛の疾患 治療①</td> <td>第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 腰下肢痛の疾患 治療②</td> <td>第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第7週目 腰下肢痛の疾患 治療③</td> <td>第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④</td> </tr> <tr> <td>第8週目 腰下肢痛の疾患 治療④</td> <td>第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 腰下肢痛の疾患 治療⑤</td> <td>第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 上肢痛の疾患 治療①</td> <td>第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第11週目 上肢痛の疾患 治療②</td> <td>第26週目 症例に対する診察・治療①</td> </tr> <tr> <td>第12週目 上肢痛の疾患 治療③</td> <td>第27週目 症例に対する診察・治療②</td> </tr> <tr> <td>第13週目 症例に対する診察・治療</td> <td>第28週目 診察の評価</td> </tr> <tr> <td>第14週目 診察の評価</td> <td>第29週目 診察の評価</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期のまとめ</td> <td>第30週目 総復習</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎回小グループ(3～4人)を形成し、相互協力のもと臨床実習を行う。</li> </ul>										第1週目 膝周囲痛の疾患 治療①	第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①	第2週目 膝周囲痛の疾患 治療②	第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②	第3週目 膝周囲痛の疾患 治療③	第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③	第4週目 膝周囲痛の疾患 治療④	第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①	第5週目 腰下肢痛の疾患 治療①	第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②	第6週目 腰下肢痛の疾患 治療②	第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③	第7週目 腰下肢痛の疾患 治療③	第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④	第8週目 腰下肢痛の疾患 治療④	第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①	第9週目 腰下肢痛の疾患 治療⑤	第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②	第10週目 上肢痛の疾患 治療①	第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③	第11週目 上肢痛の疾患 治療②	第26週目 症例に対する診察・治療①	第12週目 上肢痛の疾患 治療③	第27週目 症例に対する診察・治療②	第13週目 症例に対する診察・治療	第28週目 診察の評価	第14週目 診察の評価	第29週目 診察の評価	第15週目 前期のまとめ	第30週目 総復習
第1週目 膝周囲痛の疾患 治療①	第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①																																							
第2週目 膝周囲痛の疾患 治療②	第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②																																							
第3週目 膝周囲痛の疾患 治療③	第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③																																							
第4週目 膝周囲痛の疾患 治療④	第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①																																							
第5週目 腰下肢痛の疾患 治療①	第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②																																							
第6週目 腰下肢痛の疾患 治療②	第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③																																							
第7週目 腰下肢痛の疾患 治療③	第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④																																							
第8週目 腰下肢痛の疾患 治療④	第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①																																							
第9週目 腰下肢痛の疾患 治療⑤	第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②																																							
第10週目 上肢痛の疾患 治療①	第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③																																							
第11週目 上肢痛の疾患 治療②	第26週目 症例に対する診察・治療①																																							
第12週目 上肢痛の疾患 治療③	第27週目 症例に対する診察・治療②																																							
第13週目 症例に対する診察・治療	第28週目 診察の評価																																							
第14週目 診察の評価	第29週目 診察の評価																																							
第15週目 前期のまとめ	第30週目 総復習																																							
教科書 ・参考書等	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考図書: 文光堂「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」</p>																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎回その日の内容を、臨床実習記録簿に記載し、提出する。欠席や未提出、不備等があった場合には総合評価より減点する。詳細は臨床実習記録簿に記載。</li> <li>前期、後期それぞれ、到達度試験があり、その評価と臨床実習記録簿記載評価、授業への取り組む姿勢等により評価を行う。</li> </ol>																																							
実践的教育に関する経歴等	<p>鍼灸整骨院の勤務歴あり。</p>																																							

授業科目名	アスレチックトレーニング			授業形態	講義	教員	早坂ひとみ		No.	35																																																												
科目区分	選択必修科目	単位	4	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																																																													
授業概要	アスレチックトレーニング及びアスレチックトレーナーの任務と役割、具体的な業務内容について学ぶ。サポートスタッフ、メディカルスタッフの構成メンバーとその役割について学ぶ。スポーツの組織とその運営について学ぶ。																																																																					
授業の到達目標	アスレチックトレーニング及びアスレチックトレーナーの任務、役割、具体的な業務について学ぶ。コーチ、スポーツドクターの役割とアスレチックトレーナーとの連携について理解し、状況に応じて、行動、正しく判断できるようになる。アスリートに対して、サポートを行うための知識を身につけ、実践できるようになる。																																																																					
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目</td> <td>アスレチックトレーニングとは</td> <td>第16週目</td> <td>防具、補装具 理論:テーピング</td> </tr> <tr> <td>第2週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価</td> <td>第17週目</td> <td>防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)</td> </tr> <tr> <td>第3週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具</td> <td>第18週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、足底)</td> </tr> <tr> <td>第4週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:①アスレチックリハビリテーション ②コンディショニング</td> <td>第19週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(足関節)</td> </tr> <tr> <td>第5週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:測定と評価</td> <td>第20週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)</td> </tr> <tr> <td>第6週目</td> <td>測定と評価 実技:姿勢</td> <td>第21週目</td> <td>防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)</td> </tr> <tr> <td>第7週目</td> <td>測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲</td> <td>第22週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)</td> </tr> <tr> <td>第8週目</td> <td>測定と評価 実技:タイトネス</td> <td>第23週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング 復習</td> </tr> <tr> <td>第9週目</td> <td>測定と評価 実技:アライメント</td> <td>第24週目</td> <td>テーピング 実技テスト</td> </tr> <tr> <td>第10週目</td> <td>測定と評価 実技:アライメント</td> <td>第25週目</td> <td>アスレチックリハビリテーション</td> </tr> <tr> <td>第11週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導</td> <td>第26週目</td> <td>部位別傷害と処置法:下肢</td> </tr> <tr> <td>第12週目</td> <td>ドーピング</td> <td>第27週目</td> <td>部位別傷害と処置法:体幹</td> </tr> <tr> <td>第13週目</td> <td>熱中症、食事、水分補給</td> <td>第28週目</td> <td>部位別傷害と処置法:上肢</td> </tr> <tr> <td>第14週目</td> <td>前期期末テスト</td> <td>第29週目</td> <td>後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目</td> <td>後期期末試験の解答</td> <td>第30週目</td> <td>後期期末試験の解答</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>事前に配布された資料を精読しておく。 授業後、特に実技に関しては、理論を熟知し、実際に測定、テーピング出来るよう学習する。 ※講義進行中にテーピングやトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。</p>										第1週目	アスレチックトレーニングとは	第16週目	防具、補装具 理論:テーピング	第2週目	アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価	第17週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)	第3週目	アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具	第18週目	防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、足底)	第4週目	アスレチックトレーナーの業務:①アスレチックリハビリテーション ②コンディショニング	第19週目	防具、補装具 実技:テーピング(足関節)	第5週目	アスレチックトレーナーの業務:測定と評価	第20週目	防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)	第6週目	測定と評価 実技:姿勢	第21週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)	第7週目	測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲	第22週目	防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)	第8週目	測定と評価 実技:タイトネス	第23週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習	第9週目	測定と評価 実技:アライメント	第24週目	テーピング 実技テスト	第10週目	測定と評価 実技:アライメント	第25週目	アスレチックリハビリテーション	第11週目	アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導	第26週目	部位別傷害と処置法:下肢	第12週目	ドーピング	第27週目	部位別傷害と処置法:体幹	第13週目	熱中症、食事、水分補給	第28週目	部位別傷害と処置法:上肢	第14週目	前期期末テスト	第29週目	後期期末試験	第15週目	後期期末試験の解答	第30週目	後期期末試験の解答
第1週目	アスレチックトレーニングとは	第16週目	防具、補装具 理論:テーピング																																																																			
第2週目	アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価	第17週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)																																																																			
第3週目	アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具	第18週目	防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、足底)																																																																			
第4週目	アスレチックトレーナーの業務:①アスレチックリハビリテーション ②コンディショニング	第19週目	防具、補装具 実技:テーピング(足関節)																																																																			
第5週目	アスレチックトレーナーの業務:測定と評価	第20週目	防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)																																																																			
第6週目	測定と評価 実技:姿勢	第21週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)																																																																			
第7週目	測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲	第22週目	防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)																																																																			
第8週目	測定と評価 実技:タイトネス	第23週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習																																																																			
第9週目	測定と評価 実技:アライメント	第24週目	テーピング 実技テスト																																																																			
第10週目	測定と評価 実技:アライメント	第25週目	アスレチックリハビリテーション																																																																			
第11週目	アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導	第26週目	部位別傷害と処置法:下肢																																																																			
第12週目	ドーピング	第27週目	部位別傷害と処置法:体幹																																																																			
第13週目	熱中症、食事、水分補給	第28週目	部位別傷害と処置法:上肢																																																																			
第14週目	前期期末テスト	第29週目	後期期末試験																																																																			
第15週目	後期期末試験の解答	第30週目	後期期末試験の解答																																																																			
教科書・参考書等	<p>①財団法人 日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト1 アスレチックトレーナーの役割</p> <p>②財団法人 日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト6 予防とコンディショニング</p> <p>③配布資料</p>																																																																					
成績評価の方法	<p>期末テストで通年成績を120点以上とする</p>																																																																					
実践的教育に関する経歴等	<p>①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員</p> <p>⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー</p>																																																																					